

Letter from Fiji

2023 年度 3 次隊／中谷剛 （配属先）フィジー農業水路省 水路部門

2024 年 2 月にフィジーに着任致しました中谷剛（なかたにつよし）です。現在、農業水路省の水路部門で、政府のエンジニアの方々に、主に洪水対策に必要な技術支援を行っています。今回は、フィジーの人たちの「しあわせ感」に関するお便りです。

皆さんは世界幸福度ランキングをご存じでしょうか。2025 年の世界幸福度ランキング（国連）では、日本は 55 位でした。国連の幸福度ランキングは、ギャラップ世界世論調査をもとに、GDP や平均寿命などの国の統計を使って決定されています。

ギャラップ調査は、「あなたは幸せですか？」という質問に直接回答する調査で、純粋幸福度とも呼ばれています。直近の純粋幸福度調査（2012～2017 年）では、フィジーはずっと 1 位でした。日本は 44 位～50 位です。

どうしてフィジーの人たちはそんなに幸せなのでしょう？

フィジーの人たちにとって大切なのは“今”です。今を楽しむことを忘れません。

ある日の昼休みに、ブラックコーヒーを飲んでいた私に同僚が話しかけてきたことがあります。

「お前、糖尿病なのか？」

「そうならないように普段から気を付けてるけど」

「え～、今は健康なんだろう」

「じゃあ糖尿病になってから気を付ければいいよ」

「だって、砂糖入れた方が美味しいじゃないか」



【同僚が持参した魚を煮て頂きます】

フィジーには、生活を支える優しい仕組みがあるように思います。大家族で暮らすこと、ケレケレ文化、そして宗教のある生活です。ケレケレ文化とは、簡単に言えば、“お金や物を持っている人が、持っていない人に分け与える”風習です。私もこのケレケレ文化の恩恵を受けています。それは職場での昼食です。私の配属先には広い台所があり、みんなお弁当を持ち寄って一緒に昼食をとります。同僚たちはいつも 2～3 人分の量のお弁当を持参します。そしてそのお弁当を台所のテーブルに置いた瞬間、それは“みんなのお弁当”になります。いただければかりでは申し訳ないので、時々コーヒーや洗剤、スポンジなどを持ってきて、心のバランスを取っています。

Letter from Fiji

2023 年度 3 次隊／中谷剛 （配属先）フィジー農業水路省 水路部門

フィジーには ビレッジ（村）と呼ばれる共同体があります。十分な電力がなく、飲料水を含めて雨水を利用しているビレッジもあります。日本人の目から見ると、毎日を避難所で生活しているように感じます。それでもケレケレ文化に根付いた共助で、不自由を感じている様子はありません。ビレッジ全体が、大きな大家族のようです。



フィジーの人たちは日曜日の午前中、教会やモスクに出かけます。礼拝のあとはみんなで昼食をとり、午後に帰宅します。帰宅後も家族や友人と過ごすのが一般的です。同僚に「日曜日はどう過ごした？」と尋ねられることがあります。「一人で過ごしたよ」と答えると、彼らはとても残念そうな顔をして「Oh, no! 寂しくなかったか？」と言います。フィジーの人たちにとって、家族や親しい人と“今”を分かち合うことが、何より大切なようです。



【平日・土曜日】



【日曜日】

日曜日はほとんどのお店が休業します。

災害は、いつ起こるかわからない最悪の状況を想定することから始まります。しかし、“今”が大切なフィジーの人たちにとって、この発想はどこか遠く感じられるようです。そこに難しさを感じることもあります。

活動を始めた頃、同僚が嬉しそうに私に言いました。「ようこそ、世界で一番幸せな国へ」。そのとき私は、「そうか、私は、経済が発展し防災技術も進んでいるけれどあまり幸せを感じにくい国から、途上国だけど世界で一番幸せを感じている国に来たんだな」と思いました。今でも時々、自分はこの国で何か“余計なこと”をしているのではないかと、そんな気持ちが湧き上がることがあります。

フィジーの人たちの“今”を大切にする生き方から学ぶことも多いなと思います。